

# 地質調査技士資格検定試験に合格して

株式会社北杜地質センター 三浦 敦



令和6年度地質調査技士資格検定試験を受験し、無事合格することができました。

私は人生折り返し地点近くで、今まで自動車整備士から転職し、全く畑違いである土木関連の地質調査関係の会社に転職しました。どの業界も資格の重要性は身に染みて分かっており、この度受験致しました。

事前講習会は受講しました。試験点数の加点、試験問題の傾向や対策が出来る問題や出題傾向に沿ったテキストを頂けるので、試験前の自主勉強に役立つ等、沢山のメリットがありました。実際、理解不足の所や、説明箇所の試験問題への出題など、大変役立ちました。

試験対策は、まず無難に過去問題（過去5年分）をひたすら解きました。そうすると3巡目くらいには、不正解箇所が似たような問題になり、そこを重点的に理解する様にしました。答えの正しい設問だけでなく、間違っている設問も、なぜ違うのかと、頭に叩き込みました。その際に役立った資料の、ボーリングポケットブックや事前講習テキストは、必須でその他、柱状図作成マニュアル、ボーリング野帳記入マニュアルなど、一から読み直し、特に数値や基本事項などを理解していきました。試験前3日前から、同僚との試験問題の見直しも役立ちました。やはり一人で居るより、相手が居ると、説明や解釈が出来て、お互い教え覚え合いながら、理解することができ

て試験に挑めました。

試験当日は、今まで勉強してきたとは言え、不安な気持ちで会場に向かったのを覚えています。試験中は、過去問題を重点的に解いていたのと、試験前の詰込みで想定してきた問題も何問か有りましたが、納得いく回答が出来ず、試験合格の手ごたえは無く、気を落としていた次第です。

合格発表の日は、自分はダメだろうと諦めていた為、すっかり発表を忘れていて、同僚や上司に聞かれて、発表を思い出したくらいです。HPで自分の番号を確認したときは、本当なのかと驚きました。地質調査技士という資格を、無事合格し取得したことで、嬉しさが溢れ発表日のその後は、仕事にも手がつかない状態でした。合格通知が来るまで信じられなく、今は合格をした事を実感しています。

今まで、いろんな国家資格や試験を受けてきましたが、今回の地質調査技士の資格取得難易度は高いと思いました。自分の年齢も高いのですが、若い方は業務も大変ですけど、ぜひ早いうちにいろんな資格取得にチャレンジしてください。私も今後は、この資格取得で学んだことを、業務で活かし、さらなる資格取得やスキルアップに、力戦奮闘していきたいと思えます。今回受験の際、業務の調整して下さった上司や同僚、試験に携わって下さった皆様、大変ありがとうございました。

## 山北調査設計株式会社 遊佐 達也



### 1. はじめに

令和6年度（第58回）地質調査技士資格検定試験「現場技術・管理部門」を受験し、無事合格することができました。

合格に向けた具体的な学習法や、試験当日の対策など、これから受験される方々のお役に立てればと思います、合格体験記を作成いたしました。

### 2. 受験勉強

選択式問題の受験勉強では、過去5年間の問題を軸に、反復学習を徹底しました。

各年度の問題を3回ずつ解き、間違えた問題は、地盤調査の方法と解説や事前講習会テキストなどを参考にしつつ、入念に復習しました。

この繰り返しの中で、物理探査とボーリングマシンの構造についての設問が特に苦手だと気がつき、試験の1ヶ月前から、この2分野について集中的に学習し、試験直前には正答率を80%以上まで向上させることができました。

記述問題では、必須項目である技術者論理が、学生時代から暗記が不得意であった私には辛い問題でした。

そこで、何度も書き写すことで、体全体で覚えるように努めました。

選択記述問題では、過去問題から自分の業務に関係が深い問題について、集中して勉強し、どんな問題が出題されても対応できるように、文章を作成し、修正を繰り返して解答の準備をしました。

試験勉強の時間は、平日の始業前と終業後の1～2時間で行うというルールを作り、効率よく集中して勉強することに努めました。

### 3. 事前講習会

本試験の1ヶ月前に行われる事前講習会で配布されたテキストには、試験に出題される問題が多く含まれており、試験の参考書として大いに役立ちました。

講義内容も、出題傾向や重要事項を中心に分かりやすく説明していただき、本試験を前に最終確認をする上で非常に有益でした。

この事前講習会のおかげで、自信を

持って試験に臨むことができ、合格につながったと考えています。

### 4. 試験当日

試験前日には仙台入りし、ホテルで最後の追い込みを行い、十分な睡眠をとって試験当日を迎えることができました。

午前の択一式問題は、過去問題を繰り返し解いてきたおかげで、80%以上の正答率に達しており、自信を持って試験に臨むことができました。

試験直前には不得意分野の最終確認を行い、万全の状態ですべて試験に臨みました。

試験では、過去問題集に掲載されていない新しい問題も出題されましたが、過去問題を解く練習をしていたおかげで、多くの問題を自信を持って解答することができました。

全問解答後、念入りに見直しを行った結果、問題の読み間違いによるケアレスミスを見逃し、減点を防ぐことができました。

午後の選択記述問題では、昼休憩を挟みましたが、昼食を早めに済ませ、試験会場に戻り、技術者倫理の問題を試験開始直前まで復習しました。試験が始まると、直前まで復習していた成果もあり、技術者倫理の問題をスムーズに記述することができ、午後の部を良いスタートで迎えることができました。

選択記述問題も、想定していた設問であったため、業務経験に基づいた具体的な解答を簡潔にまとめることができ、満足のいく答案を作成できました。

### 5. おわりに

地質調査技士試験は年々難易度が増していると感じていましたが、自身の不得意分野を中心に学習を進め、無事に合格することができました。

試験勉強を通じて、実際の業務に活かせる知識を多く得ることができ、大変有意義な経験となりました。

今後は、地質調査技士として、さらなる知識と技術の向上を目指し、日々研鑽を積んでいきたいと考えています。

## 柴田工事調査株式会社 山口 絵理香



## 【はじめに】

この度、令和6年度（第58回）地質調査技士資格試験（現場技術・管理部門）に合格し、体験記を書く機会を頂きました。これから受験される方の参考になりましたら幸いです。

私は令和元年度に初受験し、土壤汚染や物理探査の分野の知識不足から、一時は諦めてしまいました。その後、日々の業務を通して経験や知識を深めたことで、令和5年度に2度目の受験をしましたが、結果は不合格でした。しかし、前回と違って手ごたえを感じたことから、勉強方法を見直して3度目の受験に挑み、ついに合格することが出来ました。

## 【勉強方法】

勉強は受験日の半年前から少しずつ始め、3か月前から本格的に取り組みました。自分が解ける問題は他の人も解けるという意識を強く持ち、更に詳しい知識を得るよう心掛けました。

過去問題は5年分を解き、年度が古い問題は規定や解釈の改定がされていないか調べました。

択一問題は、4問中、正解が1問の場合は他3問のどこが間違いであるかを、WEBや「地盤調査の方法と解説」、「地盤材料試験の方法と解説」を参考に確認しました。勉強用ノートは出題される章ごとに分冊することにより、同一の内容が分散するのを防げたこと、また見直しや追記がしやすくなり、苦手分野も明らかになったことからお薦めします。

記述問題は、解答用紙と同じ様式を作成し、倫理・選択問題をそれぞれ1日1回書くようにしました。作成した文章は、部署内の先輩方に添削して頂き、自身で気付けない間違いや、読みやすい文章の

作成方法などの指導を受けました。また、参考資料や関連図書を貸与して頂いた事も励みになりました。

## 【事前講習会】

2回受講した事前講習会は、試験結果に大きく影響する加点が付与され、最新の情報や改定の話も聞くことができるなど大変有意義でした。

なお、講習会のテキストは充実しており、情報量が多く、6月の講習会から取り組んでも間に合わないことから、これまでの勉強を補足する教材として利用しました。

## 【受験当日】

当日は受験票、筆記用具、時計を何度も確認しつつ、開場時間よりも早く到着しました。

択一問題は、適切か不適切を選ぶ設問を間違いやすいので、問題文に線を引いて気を付けました。例年と出題形式の異なる問題もあり動揺しましたが、落ち着いて問題文を読み返すことで解答できました。

記述問題は、これまでの経験や勉強を振り返りながら解答し、最後に受験番号・選択問題の番号の誤りや記入漏れがないか確認しました。

## 【終わりに】

私が合格することが出来たのは、普段から仕事内で疑問に対してアドバイスを頂き、試験勉強に進んで協力や応援して下さい下さった部署の方々のおかげであると感謝しています。

今後は、資格取得を通して得た経験や知識を活かして業務に取り組み、地域社会に貢献していきたいです。